

4.3 アジェンダシステム

八代 茂夫、村上 晃一、柿原 春美

4.3.1 はじめに

KDS 会議支援システム (Indico : Integrated Digital Conference) は CERN Document Server Software Consortium によって開発されている CDS Indico による、会議や打ち合わせを支援するシステムである。2007年2月に運用開始された KDS 会議支援システムは、その前身システムである CDS agenda の 2005年5月の運用開始以来、機構内外で行なわれた多くの打ち合わせや会議でアジェンダシステムとして利用されている。

このシステムを利用することにより、プレゼンテーション中の資料を手元にダウンロードして参照したり、打ち合わせ後に資料を参照することが容易になり、お互いのコミュニケーション強化に役立っている。

4.3.2 利用状況

カテゴリー毎に登録イベント数(会議数)の状況を表1および図1に示す。前年度に対する増加率は39%で年々低下しているが、増加数は1834件で過去最高の伸び数である。

表1 登録イベント数の推移

Category	2007/3 末	2008/3 末	2009/3 末	2010/3 末	2011/3 末
Experiments	355	925	1500	2714	3907
Projects	-	-	224	316	433
IPNS	14	18	37	102	123
Photon Factory (PF)	-	-	0	3	3
Accelerator Lab.	-	194	1057	1356	1833
CRC	8	15	22	25	38
Cryogenics Science Center	-	-	1	1	7
Conferences, Workshops	15	33	47	63	69
Seminars	10	10	10	10	10
JPS	3	5	7	9	10
合計	405	1200	2905	4599	6433

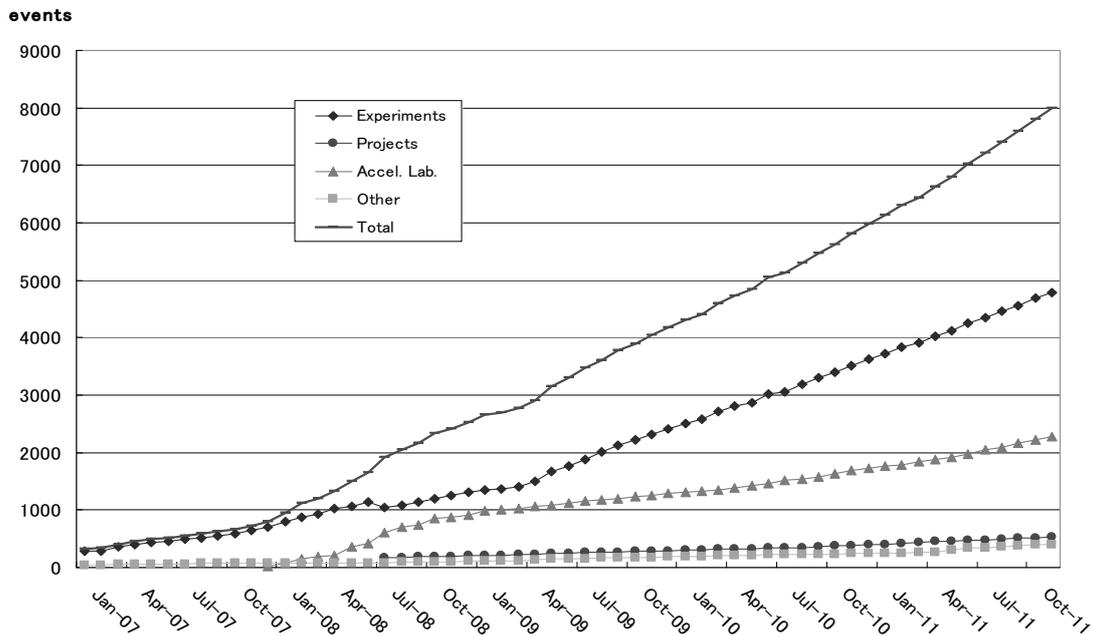


図 1 登録イベント数の月毎の推移

4.3.3 運用方針の検討

KDS ではセキュリティ向上のために、メール発信を KEK 内に限っている。利用者から、メール制限は、indico の一部機能を利用できなくしており、使いにくいので何とかして欲しいという要望が寄せられている。メール発信を可能とするための検討課題は以下の通りである。

1. メール発信の制限を解くと、何ができるようになるか
 - (1) agenda 作成者が、kds 登録ユーザのメールアドレスを、
発表者に連絡するためのリスト
参加者に連絡(meeting の reminder など)するためのリスト
に登録して、メール送付が出来る。
 - (2) 参加者が参加申込者時に、確認メールを受け取れる。
 - (3) agenda 作成者は発表者に、資料 upload 可能にするためにアカウント作成を促すメールを出せる。
=> アカウント作成を誰が、どのようにして承認するのか、方針と手続きを別途検討する必要がある。

(4) 参加者が他の参加者にメールを送れる。

なお、利用の手引きで(1)については別途メイリングリストを作成することを提案している。

2. メール発信の制限を緩和する場合に、設定がどのように変わるか、またどのようなメールの運用の負担が生ずるのか

(1) メール配送を PostKEK にゆだねる場合

- ・ smtp.post.kek.jp で KDS からのメール中継を許可する設定が必要
- ・ メール管理者作業が増える。

(2) メール配送を KDS 自身がおこなう場合

- ・ 発信のみ許可、受信は拒否の設定は可能。
- ・ メール管理者作業が新たに発生する。

3. 検討課題

(1) アカウント登録は外部アドレスでも可としている。外部アドレスのユーザのメールが、KEK の重要なメールシステムである PostKEK から出ていくと運用上支障をきたす可能性がある。

(2) アカウント作成がオンラインベースで出来る機能を利用するのか、抑止するのか検討が必要。承認手順は、誰がどのようにユーザ確認を行なうのかを含めて検討する必要がある。

(3) 誰でもメール送信が可能になるので、ユーザ管理を厳格化する必要がある。